

はじめての論文掲載

医療ドラマにおいて外科医が主役に設定されることは少なくなく、古くは『白い巨塔』、最近では「私、失敗しないので」の『ドクター X ～外科医・大門未知子～』がすぐに思い浮かぶ。小生は特にドラマに感化された訳でもないが、思い悩むこともなく卒業後外科に進んだ。臨床研修が必修化されたのは2004（平成16）年で、それ以前は卒業後に当該診療科の研修がすぐに始まる形であった。麻酔科以外の他科研修は全く



なく、地域医療研修というものは当時存在すらしなかった。当時の上級医からすると、外科研修医は今後外科を専攻することが確定している者ばかりである。鍛えて外科診療を担う人材に、そして将来はわが外科医局に入って運営を支えて欲しいと考えていたように思う。上級医から昼食・夕食をご馳走頂いたことは数知れず、飲み会では様々な先輩方のキャリアパスや将来展望を本音で伺うことも出来た。診療に関するご指導はもちろんであるが、それ以外の面でのサポートがとても多く、今振り返ってみても上級医には感謝しかない。

さて、このたび佐野武先生の後任として、本誌の編集委員の一員に加えて頂くことになった。実は、小生の人生はじめての論文が掲載されたのは何を隠そう本誌である。大学病院で外科研修をはじめた直後、腸閉塞に対するイレウス管留置がたまたま続いた。イレウス管は胃の中でたわみをもたせておくのだと説明を受けて、何も経験のない私は疑うこともなく受け入れていた。ただ、イレウス管を留置したにもかかわらず翌日からの排液量が極端に少なくなり、腹部単純 X 線をとったところ、胃の中でたわませたチューブのループが先進して、幽門輪をチューブが3回通過する形になっていた。この屈曲が原因で排液が少なくなっており、これを解除したところドレナージ良好となった。こういったイレウス管のトラブルを同時期に偶然3例経験し、「胃の中でたわみは作るべきではない!」と、以後は現在に至るまで若手医師には常に指導している。当時の上級医からは、「珍しい事象だから論文発表出来るよ」と言われ（研修医の私にとっては数ヶ月に3例なので珍しくなかったのだが）、あれよあれよという間に論文の形が作られ、そして小生のはじめての論文が掲載された。もう20年以上前の話であるが、当時の喜びを鮮明に覚えている。

飲食はもちろんであるが、論文掲載という経験を早期に与えて頂いたことが今振り返ってみても本当に有難かった。ご指導頂いた先輩に改めて感謝するとともに、人生はじめての論文が掲載された本誌に編集側の立場で参画させていただくご縁にも深く感謝する次第である。

（山下 裕 玄）

顧問 森岡恭彦 武藤徹一郎 今村正之 山崎洋次 幕内雅敏
名川弘一 亀岡信悟 國土典宏 幸田圭史 佐野 武
編集 長谷川 潔 船橋公彦 山下裕玄

臨床雑誌 外 科	第86巻 第2号（2月号）	2024年2月1日発行（1082号）
編集兼発行者	東京都文京区本郷三丁目42番6号	小 立 健 太
印刷所	東京都千代田区飯田橋二丁目15番5号	日経印刷株式会社

発行所 ☎ 113-8410 東京都文京区本郷三丁目42-6（営業）TEL 03-3811-7239：振替口座 00120-1-149 番
株式会社 南江堂 （編集）TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660 <https://www.nankodo.co.jp/>

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物の利用に関する原著者の権利は、株式会社南江堂が保有します。

・JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

広告申込所：☎ 113-0033 東京都文京区本郷5丁目24番6号本郷大原ビル6階 文京メディカル TEL 03-3817-8036